

## 編集委員会便り

林編集委員長から、建築の関係者が少ないのでと入会を勧められ、種々の特集を通じて色々勉強してきました。今度インテリジェントビルの特集の企画を依頼され、どういものにして良いか大いに迷いました。

最近のオフィスビルは、各会社が設計や設備に関し、どんどん革新を行い進歩してきており、その呼び方がインテリジェントビルというアトラティブなものになったからといって、その実体が急変するわけでもなく、実質的には何も変わらないのではないかというのが私の正直な理解です。

現在各会社がインテリジェントビルのコンセプトを示していますが、OA、BA、TCと、快適な創造的環境等がその要素であるという点で大差はない様です。

米国のインテリジェントビルアソシエーションの定義は、ビルのオーナーや利用者のニーズに応えるため、建築構造（間仕切りや家具も含む）、システム（空調、照明、電気、輸送、安全、情報、通信等を含む）、サービス（シェアテナントサービス、訓練、清掃等を含む）及びマネジメント（保全、管財、リース、情報通信技術管理等を含む）を総合的に管理運用することとしており、日本に較べると、ファシリティマネジメントを重視しているのが特徴であるといえると思います。

インテリジェントビルに関しては、種々の学会や雑誌で取上げられてきており、OA、BA、TC等の機器に関する最近の傾向を重視したもの、インテリジェントビルが創造的仕事にふさわしい快適でゴージャスな空間を提供するもの等に注目したものが多かった様に思います。

本特集では、これ迄のものとは異なった特色を持たなければならぬと考え、学界にも業界にも興味のある

テーマということで、竹中工務店の杉浦修央課長に相談に乗って頂き、検討しました。

IBが高度な機能と設備を有するビルであればあるほど、その企画から運用、保全を含めて、信頼性のある、ライフサイクル設計が必要であるが、個々の機器に関しては、本学会の記事でこれ迄に取上げられてきていることでもあり、会社としてのファシリティマネジメントの観点で、どの様な方向に展開してゆくのか、またインテリジェントビル群としてどう発展するのか、そのための社会基盤整備等がどうなるのか等について、焦点をあててはどうかということになった。

この様な点は、本学会のこれ迄の特集とやや傾向が異なるところがあるかもしれないことが心配ではあるが、御許し願いたいと思っている。

本年は例年になく暑い日が続き、水不足気味で、電力消費も記録を更新したという余り有難くない夏でした。

インテリジェントビルもエネルギー消費の観点で、ライフサイクル設計を推進し、また夜間蓄熱等により電力のピークカットを行う要請が高まってきている様に思われる。またイラクのクウェート占領という事件で、エネルギー事情も予断を許さない状況である。インテリジェントビルのファシリティマネジメントに重点を置いた企画も意味があったかもしれないと思っている。

終に、編集委員長始め、委員の方々及び、御多忙にも拘らず原稿の御執筆を頂いた先生方の御援助により本特集が発行されたことに対し厚く御礼申上ます。

寺井俊夫  
(京都大学工学部教授)